



文理・科目選択
応援BOOK

キャリア講演の効果をより高めるための『文理・科目選択応援BOOK』

— 徳山高校(山口・県立) —

取材・文／永井ミカ



写真右から
教務課長
西本利昭先生
教務課
升谷幸子先生

School Data

創立1880年／普通科・理数科
生徒数953人(男子494人・女子459人)
進路状況(2014年度)／大学進学257人・短大進学3人
専各進学6人・就職0人・その他51人
山口県周南市鐘楼町2-50
TEL 0834-21-0099
URL <http://www.tokuyama-h.yasn21.jp/bcms/>

キャリア教育プログラム「魁講座Ⅱ」の講師一覧

分科会名(関連学部・学科)	職種・業務
法曹(法)	弁護士
経営(経済)	公認会計士
公務員	市役所職員
中等教育(教育・文学)	中学校教諭
初等教育(教育・福祉)	小学校教諭
幼児教育(教育)	保育士
国際関係(外語・国際)	企業海外担当者
技術(理・工)	化学研究
食品商品開発・研究(理・工・農)	開発・販売
建築(工)	建築士
栄養(栄養)	管理栄養士
医療(医・歯)	開業医
医療(看護)	看護師
医療(保健)	作業療法士
医療(薬)	薬剤師

「A教育」としている。「何かに一生懸命取り組むことは必ず自身のためになるし、なりたいたい自分を見つけるヒントとなるはず」と教務課の升谷幸子先生。そして、この流れのなかでリクルートサービスを補助的に活用している。1年生では5月に冊子『Career

9月に実施する「魁Ⅱ」は1年生を対象としたもので、弁護士、栄養士、メーカーの社員などさまざまな職業人を招く。生徒は原則、興味のある職業人の講演を聞けるがユニークなのはその前に開かれる座談会。講師を文系・理系混合で3人ずつのグループに分け、分科会形式でパネルディスカッションを実施。生徒は自分が講演で聞く予定となっている講師が入っていないグループの分科会に参加しなければならぬ。「少しでも多くの社会人と触れ合ってほしいという考えで始めました。生徒のみならず講師の方が異業種の方や高校生と気軽に交流できると喜んでくださるので、非常によい雰囲気。質疑応答も活発です」と、教務課長の西本利昭先生。そして「魁Ⅲ」は3月実施で、1・2年生が大学講師による模擬授業を受ける。

運動会、文化祭からの気持ちの切り替えに冊子を活用

同校では「魁講座」はもちろん、担任が5日間かけて全生徒とじっくり2者面談する面談週間や、自主運営による盛大な徳高祭なども、大きな意味でキャリア教育ととらえている。「何かに一生懸命取り組むことは必ず自身のためになるし、なりたいたい自分を見つけるヒントとなるはず」と教務課の升谷幸子先生。そして、この流れのなかでリクルートサービスを補助的に活用している。1年生では5月に冊子『Career

Scope(キャリア・スコープ)』を配付。保護者も参加可能な講演を行い、魁だけでカバーしきれない職業人や組織の中で働くということについて学ぶ機会をもつ。9月、運動会と徳高祭を終えると、1年生は文理選択に向けて準備を始める。そこで生徒に配付するのが『文理・科目選択応援BOOK』だ。「ここまで、魁や『Career Scope』、その他で職業観育成を行っています。何か興味がある職業分野があれば、そこから学部選びをしてみるのもひとつの方法。『文理・科目選択応援BOOK』は職業分野と学部をつなげて考えることができるツールだと思えます」と升谷先生。付属のワークシートに集中的に取り組むことで、本格的な文理選択へと、生徒の気持ちの切り替えに役立っているという。なお、11月に最終的な文理選択を行い、2年生の1学期からは『進路辞典 研究号』で大学研究を始める。早期に高い目標設定をもつことでモチベーションをアップさせていくのがねらいだ。「進路選択は職業からでも学問からでもいいと思います。ただ、視野を広げてたくさん引き出しはもってほしい。キャリア教育でその手伝いができれば」と升谷先生。「勉強だけでは生徒は伸びません。行事も含めた多くの学びや失敗のなかから核となるものを見つけ、こんな勉強をしたいという気持ちが芽生えてくれたら」と西本先生。同校では今後も、キャリア教育のさらなる内容充実を力を入れていく考えだ。